

みやこ はし 京の橋しるべ

創刊号！！

(平成25年5月発行)

◆橋の健全化に向けて

昨年の中央自動車道の笹子トンネルの崩落事故をきっかけに、道路、橋、トンネルなどのインフラの老朽化問題への関心が高まっています。特に橋やトンネルといった大規模構造物については、落橋や崩落した場合、利用者へ多大な被害を与えるほか、長期間にわたる通行止め等により、市民の日常生活にも大きな影響を及ぼします。

また、平成7年の阪神・淡路大震災や一昨年の東日本大震災等ではインフラが寸断され、避難ルートの確保や救援車両の通行に支障を及ぼしました。

京都市では、平成23年12月に策定した「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム」に基づき、橋りょう健全化の柱となる「耐震補強」と「老朽化修繕」を並行して効率的・効果的に推進し、安心・安全な市民生活の確保に努めてまいります。

「耐震補強」・・・建設当初に設定した耐震性能を、近年発生した大きな地震に対しても耐え得る強度に高めるもの

「老朽化修繕」・・・古くなった橋を本来の機能が発揮できるよう修繕するもの

◆「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム」の概要

●「重要路線」の設定による優先順位の明確化

- ・緊急輸送道路の中でも、京都市の骨格となる路線を「重要路線」と位置付け、重要路線上の橋の対策工事を最優先で進めることにより、災害時における救助、支援活動のための道路ネットワークの確保を早期に実現します。

●最優先に取り組むべき橋について5年以内に対策完了

(耐震補強)

- ・「重要路線」上の15m以上の橋 **14橋**、新幹線または緊急輸送道路をまたぐ **3橋** の合計 **17橋** について5年以内に耐震補強を完了

(老朽化修繕)

- ・**34橋** について5年以内に老朽化修繕を完了



プログラムのイメージ

*本プログラムは、平成24年度から平成28年度までの5年間の取組目標を明確に定めた第1期プログラムです。

★「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム」の詳しい内容は、次のアドレスを御利用ください。

【プログラムの詳しい内容】<http://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000114679.htm>

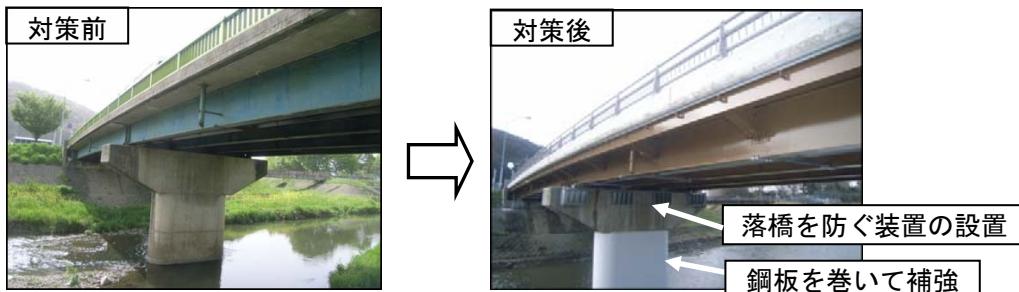
◆耐震補強の取組

- 京都市では平成7年度から、緊急輸送道路上の15m以上の橋及び跨線・跨道橋を「都市防災上重要な橋りょう」と位置づけ、耐震補強を進めてきました。
- これまでの取組により、平成23年度末時点で、「都市防災上重要な橋りょう」**92橋**のうち、**40橋**の耐震補強が完了しています。
- 東日本大震災の被災状況を目の当たりにして、災害時の避難ルートや緊急車両等の通行確保に向け、残る**52橋**の耐震補強をスピードアップすることが喫緊の課題となっています。



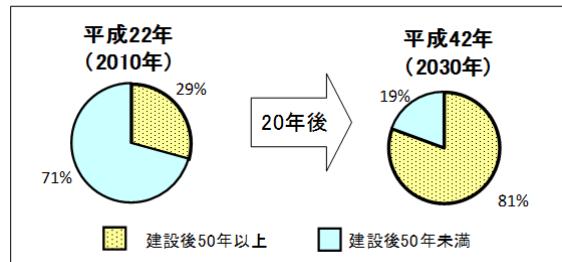
- プログラムで定めた優先的に取り組む17橋のうち、「**10橋**」に着手しています。
(平成25年3月時点)

<対策例>



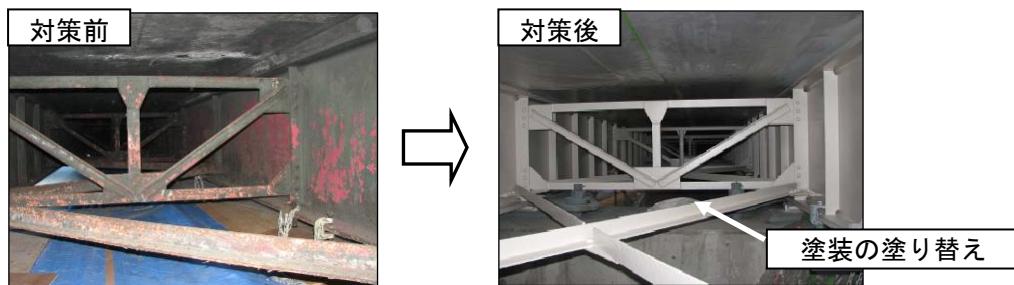
◆老朽化修繕の取組

- 京都市が管理する橋は約2,800橋あり、このうち建設後50年以上を経過した橋は約3割を占め、20年後には約8割に達します。
- 京都市では、15m以上の橋、緊急輸送道路上の橋、跨線・跨道橋等の**680橋**について、橋の健全度を調査しました。
- その結果、早期に**老朽化修繕**を実施する必要のある橋が**265橋**あることが判明しました。
- これらの老朽化した橋の**修繕を効率的に進めていく**ことが大きな課題となっています。



- プログラムで定めた優先的に取り組む34橋のうち、「**26橋**」に着手しています。
(平成25年3月時点)

<対策例>



★「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム」の進捗状況は、次のアドレスを御利用ください。
【プログラムの進捗状況】 <http://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000132748.html>

〈京の橋の紹介〉

三条大橋 (さんじょうおおはし)

場 所：中京区中島町、東山区大橋町

道 路 名：一般市道三条通

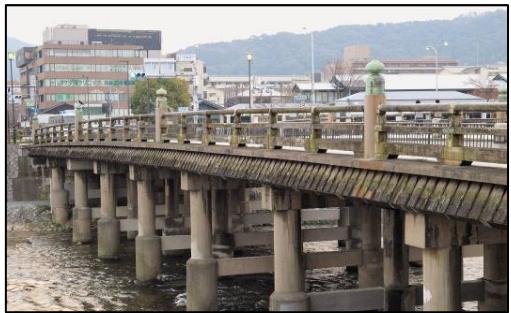
河 川 名：一級河川鴨川

橋 の 種 類：鋼単純H型橋

橋 長：73m

幅 員：16.7m

完 成 年 月：昭和 25 年 4 月



京都市で有名な橋といえばこの橋を挙げる方も多いのではないで
しょうか。東海道五十三次の西の起点であり、我が国最初の駅伝(*)
のスタート地点にもなりました。

初めは遠く室町時代の造営とされており、天正 18 年 (1590 年)
に豊臣秀吉が大改修を行い、現在の形となりました。その後、元禄、
明治、大正に架け替えられ、現在の橋は、昭和 25 年 (1950 年)
に改築されたものです。



この橋の高欄の擬宝珠は、青銅製でよく見ると銘文が刻まれています。お
およその意味としては、「京都三条の橋は、後代まで往来する人々の助けとなる。
しっかりした基礎は地中に五尋（約 9.1m）の深さまで入り、切石の橋
柱は 63 本ある。まさに日本の石柱橋としては最初のものだろう。天正 18
年 (1590 年) の正月の日に豊臣秀吉が世に初めて贈り、増田右衛門尉長盛
が造営した。」となります。

三条大橋の擬宝珠には池田屋騒動の時の刀傷が残っていると言われていたり、桂小五郎と芸妓の幾
松が橋の上と下に別れて忍び会ったエピソードなど、この橋は数々の歴史の証人となっていました。

(*)「東海道駅伝徒步競走」として、大正6年(1917年)4月27～29日の3日間にわたり開催されました。

◆おわりに

私たち建設局調整管理課橋りょう担当では、市民の皆様の安心・安全な生活を守るため、
京都市が管理する「橋」の耐震補強と老朽化修繕を進めています。

今回、その取組を市民の皆様にもっと知っていただくため、また、私たちの日常生活を
支えるかけがえのない「橋」について関心を持ってもらい、身近なものとして親しんでい
ただくため「京の橋しるべ（みやこ の はし しるべ）」というリーフレットを創刊するこ
ととしました。

「道しるべ」は、道路に目的地までの距離や方向を示し、道案内のために設置されたも
のですが、「橋しるべ」は私たちの「橋」に関する取組などをわかりやすくお伝えして（案
内して）いきたいということで名づけました。

今後、定期的に発行し、市民の皆様に「橋」にかかる様々な情報を発信していきます
のでよろしくお願ひします。

発行・お問い合わせ 京都市建設局調整管理課橋りょう担当（電話 075-222-3568）

